

見つめる目 しなやかな心 医療を支える 看護の手	看護部だより	2013 年 07 月号 第 267 号	特定医療法人衆済会 増子記念病院 看護部 部長 上村 志磨子 (認定看護管理者)
--------------------------------	---------------	----------------------------	--

6 月 11 日付で看護課長を拝命いたしました。

優れた看護観を持ち続けられるような組織づくりを

3 階病棟 課長 早野純子

私は、このたび 6 月 11 日より看護課長の命をいただきました。当院に入社してから 14 年間、4 階病棟で様々な経験をさせていただきました。

看護は看護者ひとりひとりの「看護観」の表現であり、優れた看護実践は「優れた看護観」を欠いてはあり得ないということを日々感じております。

私達、看護師は看護のプロとして仕事に誇りを持ち、患者さんとその家族の最も身近にいる存在で、痛みや不安に対するケアは勿論のこと、安全で良質な医療を安心して受けていただけるようあらゆる配慮が出来ることが要求されます。

安全で良質な医療を安心して受けていただけるような組織づくり、そして皆さんひとりひとりがいきいきと、そしてきらりと光る「優れた看護観」を持ち続けられるような組織づくりに、まだまだ新米課長ではありますが尽力していきたいと思っております。

皆さんこれからもどうぞよろしくお願いいたします。

1 看護のこころとセンスを磨く

社会が豊かになり、患者さんが医療機関を選べる環境になっても、変わらないことがあります。それは人の心です。たとえ、最新の技術や設備をもって病気を治癒することができても、その人がいきいきと生きる力、つまり「心」を取り戻すことができなければ、それは本当の意味での医療や看護にはならないのではないのでしょうか。

人の心を動かすことは理屈ではありません。人の心を動かすのは人の心で、感情を豊かにするのは人の温かい感情です。その温かい感情を言葉や態度に表すことが、マナーや心配りに満ちた話し方なのだと思います。

しかし、マナーはルールではありません。ですからマナーは必ず守らなければならないものでもありません。だからこそ、マナーや心配りには人の気持ちや真心が込めるのだと思います。やるべきことをやる、言うべきことを言う、こうしたことはもちろん大切ですが、それらに加えて温かい感情や気持ちを表すことがどれだけの価値なのか考えていきたいですね。

2 仕事なんだから…

「仕事なのだから、やればいいのでしょ」「やることはやっているのだから文句はないでしょ」などと、理屈だけで仕事をしている人はいませんか。

そういう人とは協力的な仕事ができにくいはずですが、仕事を確実にこなし、その質をあげようとする人は、単に仕事のみを理屈で考えている人ではないはずですが。

仕事に関する意識の中に、相手と良好なコミュニケーションを築こうとする気持ちがある人だと思います。コミュニケーションを良好にしようとする努力は、相手の立場を考えていることに繋がります。その気持ちをもって精一杯のコミュニケーションをすることが、その人の印象を良いものとし、お互いの協力へと繋がるはずですが。その結果、お互いの仕事がスムーズにはかどるはずですが。

また、「仕事なのだから・・・」に話を戻します。人生の時間の多くは、仕事に費やされる訳ですよ。だとしたら、単に仕事としてするのではなく人生そのものとして仕事をするべきだと思います。

仕事は嫌だけど、お金のために仕方なくやっている。それも、決して否定はしません。生活のために仕事をすることは必要なことです。しかし、そればかりでは決して幸せになれないような気がします。

3 人のために

それをすることが楽しいから、それをすることが自分の幸せにつながるからこそ一生懸命に働くというのではないとすれば、それは不幸なことだと思います。少なくとも、看護師という職業を選んだ皆さんは、患者さんのケアをすることを通じて患者さんに何かを与えよう

としているのではないのでしょうか。つまりは、人のために、他人の喜びのために働いているのではないのでしょうか。もちろん、そのことが自分の生活のためにもなるのです。見方を変えて「自分の喜びのために働く」「自分の喜びのために人に一生懸命にかかわる」ことを考えることが心を豊かにするのだと思います。

4 仕事に価値を

皆さんにも優しさや思いやりを「言葉」と「行動」に表現すること、他人を思いやる心を忘れることなくこれからも看護を探究して行ってほしいと思います。そして、看護師を目指した時の初心を忘れることなく仕事に価値を見出し、看護のセンスを磨き「看護することの楽しさ」を少しでも多くの方たちが感じて頂けるようになることを願っています。

以上

参考文献：「ナースのためのマナー&接遇術」 関根健夫・杉山真知子 著

中央法規出版 2012 年

学生コーナー

学生にしかできない援助

2階病棟 看護学生 俵 知恵子

1月からの各論実習が始まり、2年生の基礎実習以来の実習であったため緊張と不安でいっぱいでした。グループメンバーや受け持たせて頂いた患者さんに恵まれ、これまで周りの協力と支えによって乗り越えていくことができています。終末期の実習では、心不全の患者さんを受け持たせ

て頂きました。患者は治療上の安静を強いられており、また点滴・膀胱留置カテーテルを挿入中であることからベッド上安静が必要であったのですが、入院前は自立して過ごされていた方であったため、気分転換が不足していました。

看護学生が受け持ちとなり挨拶にいくと、患者さんは「やったー！ 学生さん散歩に連れて行ってね」と学生が受け持つこと、受け持つことで気分転換が図れることを喜んで下さいました。

安静度が院内フリーとなり、元々お話が好きな方であったので、食堂や屋上で景色を見ながらお話をして気分転換を図りました。受け持ち終了となり、別れの挨拶の際に「学生さんが居てくれて本当に楽しかった。本当の孫のようだったよ」と言って下さり、看護学生が関わることで患者さんにとって有意義な入院生活を送って頂けたのかなと感じることができ、また看護学生の存在や援助が闘病意欲の向上に繋がったのではないかと感じる事が出来ました。

学生として限られた援助しか提供できないですが、逆に学生にしか出来ない援助を見つけて、これから 11 月まで続く実習で受け持たせて頂く患者さんに、闘病意欲の向上や QOL の向上を目指した看護を提供していきたいと思えます。

以上

<前号の感想>

楽しみな「学生コーナー」

「学生コーナー」はいつも楽しみに読ませてもらっています。看護部たよりは、毎回、学生さんの家庭にも郵送されています。この「学生コーナー」は、郷里で我が子の様子を心配されているだろう、ご家族にとって、少しでも仕事の様子を知れせることができるのではないかと、との目的もあり、年間で学生全員に投稿依頼が分担されています。看護師であれば、全員が通ってきた学生時代。記録に追われ徹夜も数知れず。テスト勉強は気が付くと涎を垂らして夢の中で大慌て。患者さんとのコミュニケーションの試練。国家試験などなど、それぞれの思い出がある懐かしい学生時代。看護師になって時間の経過とともに忘れがちなことを思い出させてもらう大切なコーナーだと思っています。看護師になろうと思ったきっかけ、そのころのあわい夢など、読む瞬間で「そうだ、そうだった」と懐かしく思ったり、新鮮な気持ちになることが出来ます。学生さん、大変だと思いますが、学生時代が懐かしくなっている看護師を、ぜひフレッシュさせてください。

(訪問看護 寺本)

- ※ もう半年が過ぎました。平成 25 年も残すところあと半分です。折り返しとなりましたが、今年目標はどの程度達成できたでしょうか？
- ※ それにしても時間の経つのは速い。記憶力の低下は時間感覚がスピードアップすることと関係あるのでしょうか…。

<新卒看護研修を終えて1>

透析室での研修を受けて

2階病棟 熊切由貴

新卒看護研修を終えて、各部署の役割について学ぶことが出来ました。それだけでなく、透析室では実際にシャントに穿刺をしたり、受け持ち患者を持たせてもらったりして、透析についてより詳しく学ぶことが出来ました。

透析室では、コンソールの操作方法や、透析中のトラブルの対処法等についても学ぶことが出来ました。透析中問題なく終了する患者もいれば、血圧が下がり十分に透析を行う事ができない患者もいます。血圧低下に対する対処は酸素療法をする、液温を下げる、下肢を挙上する、血圧を上げる点滴を開始する、除水量・速度を下げる、補液をする、除水を一旦止めて様子を見る等があります。しかし、透析を長く続けている患者の場合は、血圧が下がった時、まず何をするのかを本人が考えている場合もあるため、自分の判断だけでなく患者自身と相談しながら行っていく必要があると考えました。これは透析に限ったことではなく病棟でも行っていく事が出来るため、自分で考えたりメンバーに相談したりするだけでなく、患者自身と話し合い様々な事に対処していける様になりたいと考えました。

また、通院している患者には家での生活状況について透析をしている間に情報収集しなくてはいけないため患者一人一人の状態や問題について把握し、話を聞けるようにする必要があるので知りました。

さらに、透析は患者との関わりも長くなっていくため、信頼関係がとても大切になってきます。病棟では短い期間での関わりとなりますが、その短い間でも患者との信頼関係を築くことが出来るよう患者に対して誠実に向き合っていく必要があると考えました。

病棟に戻ってからは、病棟透析を行い、透析室での経験を早速活かすことが出来ました。

最後に新卒看護研修では、各部署との交流を持つことにより、それぞれの役割を学ぶだけでなく、自分には増子記念病院の職員の一員として行動していく必要があると改めて感じる事が出来ました。

ご指導ありがとうございました。

以上

※ 昨年度の新卒看護師には「新卒看護職員研修を受けて」というテーマで感想文を提出してもらっています。毎号、少しずつご紹介します。この感想文を書ってもらった新卒看護師も新たな新人を迎え、今では先輩として活躍しています。今年の新卒看護師はこの感想文を「来年は自分が書く」こととなりますので、参考にしてください。

※ 一人前になるためのステップとして以下のようなものがあります。

- ① 知らないことは知らない。
- ② 知らないことは何かが分かる。
- ③ 知っていることは何かが分かる。
- ④ 知っていることが解るようになる。
- ⑤ 解ったことが実践できるようになる。